

2014年11月21日

関係各位

野村アグリプランニング &amp; アドバイザリー株式会社

## 平成26年度6次産業化優良事例表彰の選定結果について

野村アグリプランニング&アドバイザリー株式会社(取締役社長:西澤隆)は、2014年11月25日開催の「第2回6次産業化推進シンポジウム」において表彰される平成26年度6次産業化優良事例を選定したと発表した。

- <農林水産大臣賞> 株式会社早和果樹園(和歌山県)
- <食料産業局長賞> 有限会社柏崎青果(青森県)
- 株式会社いでぼく(静岡県)
- 株式会社恵那川上屋(岐阜県)
- やまいもまつり有限会社(山口県)
- 株式会社お菓子のポルシェ(沖縄県)

「第2回6次産業化推進シンポジウム」は、農林水産省の平成26年度補助事業「6次産業化ネットワーク活動全国推進事業」の一環として同社が主催する。本シンポジウムでは、異業種や地域とのネットワークを積極的に構築し、新たな視点で6次産業化に取り組んでいる全国各地の優良事例を表彰し、受賞者による先進的な取り組み内容を紹介するとともに、パネルディスカッションを通じて、農林漁業の未来創造戦略を考えることを目的としている。

同社は今後も、農林漁業の成長産業化の推進や地域活性化に積極的に貢献していく。

※ 第2回6次産業化推進シンポジウム概要:

<http://www.nomuraholdings.com/jp/company/group/napa/data/20141001.html>

平成26年度6次産業化優良事例表彰の受賞者について:

<http://www.nomuraholdings.com/jp/company/group/napa/data/20141121.pdf>

以上

## 【ご参考】平成 26 年度 6 次産業化優良事例表彰の審査結果について

### 1. 6次産業化優良事例表彰の概要

異業種や地域とのネットワークを積極的に構築し、新たな視点で6次産業化に取り組んでいる全国各地の優良事例を公募し、審査委員会による審査を経て、6次産業化の成果や今後の成長性について選考の上、表彰する。

6次産業化優良事例表彰は平成25年度から実施しており、今回で2回目。農林水産省の補助事業である「6次産業化ネットワーク活動全国推進事業」の一環として、野村アグリプランニング&アドバイザー株式会社が実施している。

### 2. 選定の経緯

(ア) 公募期間:2014年6月9日～6月30日

全国から公募を行い、50事例の応募があった。

(イ) 第1回審査委員会:2014年7月14日

50事例の応募の中から、第1回審査委員会において、現地調査の対象とする25事例を選定した。

(ウ) 第2回審査委員会:2014年9月24日

事務局の現地調査レポートに基づき、第2回審査委員会において、表彰候補となる6事例を選定した。

(エ) 第3回審査委員会:2014年10月22日

第2回審査委員会で選定された6事業者によるプレゼンテーションを実施し、農林水産大臣賞に相応しい1事例を選定した。

#### 【平成26年度6次産業化優良事例表彰 審査委員名簿(敬称略)】

| 氏 名          | 所 属 ・ 役 職                    |
|--------------|------------------------------|
| 木内 博一        | 農事組合法人和郷園 代表理事               |
| 岸 憲正         | 農林漁業成長産業化支援機構 投融資本部長         |
| 新岡 敏美        | 有限会社新岡農園 代表取締役               |
| 高木 勇樹        | J-PAO理事長、元農林水産省事務次官          |
| 本間 正義(審査委員長) | 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授          |
| 米山 久         | 株式会社エー・ピーカンパニー 代表取締役社長       |
| 信夫 隆生        | 農林水産省食料産業局産業連携課長             |
| 西澤 隆         | 野村アグリプランニング&アドバイザー株式会社 取締役社長 |

### 3. 応募条件

応募者は、地域内もしくは地域の枠を超えて連携・ネットワークを構築して6次産業化の取組・活動を行っている団体(企業、法人、任意団体等)又は個人であって、次に掲げる6次産業化に係る活動・取組のうちいずれかーに該当する活動を行っている者とする。なお、グループ全体の売上規模は概ね1億円以上とする。

(ア) 農林漁業者同士が連携した取組

(イ) 農林漁業者が主導し、2次・3次事業者と連携した取組

(ウ) 2次・3次事業者が主導し、地域の農林漁業者を巻き込んだ取組

(エ) 市町村・地域が主導して、地域ぐるみで多様な者が連携した取組

(オ) その他(ア)～(エ)に準ずる取組

※農林漁業者は農協、漁協、農業法人、集落営農等を含む

#### 4. 審査基準

| 項目        | 審査の視点  |
|-----------|--|
| 経営規模      | <ul style="list-style-type: none"><li>● 6次産業化部門の売上が一定程度あるか</li></ul>   |
| 収益性       | <ul style="list-style-type: none"><li>● 1次産品の収穫から販売までの6次産業化に付加価値が備わっているか</li></ul>   |
| 成長性       | <ul style="list-style-type: none"><li>● 過去からの推移において6次産業化部門の売上が伸びているか</li><li>● マーケットにおいてシェアを拡大しているか</li></ul>  |
| バリューチェーン  | <ul style="list-style-type: none"><li>● 農林漁業者、2次事業者、3次事業者と連携をしたビジネスモデルを構築しているか</li><li>● 消費者へバリュー提案(商品価値の提示)を行い、市場性を確認しているか、また、バリュー提案に基づく商品提供を安定的に実施できる体制が整っているか</li></ul> |
| イノベーション   | <ul style="list-style-type: none"><li>● 他の事業者に先駆けたビジネスモデルを構築しているか</li><li>● 市場性がある商品を作るため、今までにないパートナーと結びつくなど、新結合を生み出しているか</li></ul>  |
| 地域貢献・社会貢献 | <ul style="list-style-type: none"><li>● 6次産業化の取組みによって地域への波及効果が生まれているか</li><li>● 6次産業化に取組むことによって雇用を生み出しているか</li><li>● 地域の活性化に貢献しているか</li></ul>                              |
| 今後の発展性    | <ul style="list-style-type: none"><li>● 現在のビジネスモデルにおいてさらなる発展が見込めそうか</li><li>● 新たな取組みによってさらに事業拡大が見込めそうか</li></ul>   |